Newsletter No.19

The Japanese Association for English Studies

日本英語文化学会

「会報」通巻　第 19 号　発行日：2025 年 11 月 3 日

（1）会長挨拶

— 第 28 回全国大会を終えて —

今年の夏も記録的な猛暑であったが、そのような厳しい暑さの続くなか、8 月 29 日に第 28 回全国大会が栃木県宇都宮市の宇都宮大学峰キャンパスにおいて開催された。都心からやや離れた会場での実施となったが、遠方にもかかわらず多くの方々にご参加いただいたことに、あらためて感謝申し上げる。新入会員や賛助会員（出版社関係者）の参加もあり、本会の今後の発展を見据えた充実した大会となった。開催にあたり多大なるご尽力をいただいた開催校の岩﨑氏に、この場を借りて厚く御礼申し上げる。

本大会では 5 つの研究発表があり、本会ならではの多様なテーマについて活発な議論が展開された。[1] SDGs を題材としたパラフレーズ教材を用いてより効果的な語彙習得の方法の実践検証を試みた髙橋氏、[2] 英語における What's done is done のような表現について、その共時的特徴と通時的な発達について検討した青木氏、[3] Terence Rattigan が 1948 年に発表した *Harlequinade* を取り上げ、同作品における自己批判性、自伝的要素などを論じた落合氏、[4] 英語名詞句の潜伏疑問文に関わる形式的特徴と意味解釈について、関連性理論における手続き的意味の枠組みを拡張的に用いてより明確な説明を試みた中井、[5] 日本語から借用された英語語彙について、OED およびオンライン・コーパスを資料として二つの時代を比較し、語義の特化や地域による借用時期の差異を論じた渡辺氏――の各発表が行われた。

本会のような比較的小規模の学会を運営していく意義は、まさに「ことば」を中心に据えた教育と研究のつながりにあるといえる。英語とその背景にある文化を軸に日々教育活動を行う私たちにとって、「英語を教える」ことは単なる技能の伝達ではなく、研究を通じてことばの多様性や文化的背景を理解し、それを教育現場に還元していく営みである。教員一人ひとりの研究領域は多様であり、その成果が教育にもたらす効果は計り知れない。

そうした研究者集団が直接成果を共有し、新たな視点を交わす場として、全国大会はきわめて重要な意味をもつ。近年、教員の多忙化により研究発表の機会が限られるなかで、本会の全国大会は、研究者としての原点に立ち返り、互いの実践や知見を通じて刺激を受け合う貴重な場となっている。

今後も全国大会をはじめ研究発表会、学会誌、本ニューズレター、英語文化エッセイなどを通じて、英語を軸とした文化やコミュニケーションに関する幅広い分野での研究成果が広く発信されていくことを期待している。

日本英語文化学会会長
中井延美

（2）全国大会報告

日本英語文化学会第 28 回全国大会（The 28th National Conference of the Japanese Association for English Studies）
開催日：2025 年 8 月 29 日（金）11:00～16:50
会場　：宇都宮大学 峰キャンパス（〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350）8 号館 3 階 8A31 教室

プログラム
開会式　11:00（8A31 教室）
大会に先立ち、2025 年 8 月 20 日にご逝去されました本学会顧問の高山信雄先生を悼み、会員一同により黙祷が捧げられた。

総合司会　佐々木隆（武蔵野学院大学）
開会のことば
会長挨拶　中井延美（明海大学）

研究発表Ⅰ　11:15～11:50（8A31 教室）
タイトル：SDGs における語彙習得に関する一考察：パラフレーズの観点から
発表者：髙橋強（東海大学）
司会：清水純子（元法政大学）

研究発表Ⅱ　13:00～13:35（8A31 教室）
タイトル：「英語における What's X is X 表現の使用と発達、およびその理論的示唆」
発表者：青木輝（明海大学）
司会：錦織裕之（大妻女子大学）

研究発表Ⅲ　13:4～14:15（8A31 教室）
タイトル：「Rattigan と *Harlequinade*」
発表者：落合真裕（十文字学園女子大学）
司会：大野直美（東洋大学）

研究発表Ⅳ　14:20～14:55（8A31 教室）
タイトル：「英語名詞句の潜伏疑問文に関わる形式的特徴と意味解釈」
発表者：中井延美（明海大学）
司会：三幣友行（東京都市大学）

研究発表Ⅴ　15:00～15:35（8A31 教室）
タイトル：Haiku and Emoji: Sematic Fields of Japanese Loanwords in English Across Two Periods
発表者：Yutai Watanabe（Hosei University）
司会：Akiko Mizuno（Takushoku University）

総会 15:40～16:30
司会：中井延美（明海大学）、三幣友行（東京都市大学）
閉会式 16:30～16:35
閉会のことば　三幣友行（東京都市大学）
写真撮影 16:35～16:50
自由懇談 16:50～
懇親会 18:00～

第 28 回全国大会（2025 年 8 月 29 日 宇都宮大学 峰キャンパス）の風景

（4）理事会・総会関連事項

日本英語文化学会 第 28 回全国大会 総会 審議・報告事項　2025 年 8 月 29 日（金）
【報告事項】（案内・確認を含む）

A. 新役員の体制に関して（中井会長）
新体制の役員に関してはホームページに記載されている通りであり、任期は 2025 年 4 月から 2027 年 3 月度までである。

B. 来年度の全国大会に関して（中井会長）
来年度の全国大会に関しては、開催会場は未定であるが、8 月 21 日か 8 月 28 日に開催する方向で検討している。

C. 研究発表会に関して（中井会長）
本年度の研究発表会に関しては、会場は未定であるが、12 月 13 日*と 3 月 14 日に開催する予定である。（*12 月 13 日の研究発表は、最終的に募集を行わなかった。）

D. 『異文化の諸相』について（編集長 川嶋理事代理で岩﨑理事より）
学会誌『異文化の諸相』への投稿に際しては、本学会ホームページに記載されている「見本」を利用するなど、投稿規定を順守する。

E.「エッセイ」に関して（編集長 清水理事代理で中井会長より）
奮ってのご応募をお願いする（10 月 31 日締切り）。

F. 学会ホームページに関して（中井会長）
学会のホームページの管理者が錦織理事から岩﨑理事へ交代する。

G. 本学会誌掲載論文の機関リポジトリーへの掲載について（中井会長）
本学会員より、本会誌『異文化の諸相』に掲載した論文を、自身の所属する大学のリポジトリーに掲載したいとの申し出があり、著作権が本学会にあることを明示することで許可することになった。

H. 会計報告（落合理事）
2024 年度の決算報告があり、承認された。

I. 学会誌の電子化に関して（岩﨑理事）
学会誌の刊行形態を従来の冊子体（紙媒体）から電子化への移行に関して、今後検討して決定していく。

（5）訃報

「全国大会報告」欄にもありますように、本学会顧問で大正大学名誉教授の高山信雄先生が 2025 年 8 月 20 日にご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

（6）高山信雄先生追悼文

―高山信雄先生を偲んで―

高山先生とは、年に何回か開催される学会の研究会でお目にかかってお話させていただいてきた。いつもおだやかな笑みを浮かべて親しく接していただいてきた。

いつの年だったか、遠い過去の記憶の中で、思い出すたびにいつも決まってあの時の先生のお姿が鮮やかに浮き上がってくるのだが、それはちょうど、英国の作家ゆかりの地を巡ってケンブリッジのあるカレッジを訪れたときだった。思いもしなかったことに、高山先生とばったり出会ったのだ。客員研究員としてケンブリッジに滞在され、すでにこの街にすっかり馴染んでいた。久しぶりにお目にかかった先生は、いつもの穏やかな笑顔で、「そろそろ日本食が恋しいでしょうから、明日の朝食事にどうぞ。味噌汁をごちそうしま

すよ」と言ってくれた。翌朝、さっそく指定された時間にお邪魔すると笑顔で迎えてくれた。そして、われわれのためにほかほかの炊きたてご飯と熱々の出来立ての味噌汁、それに梅干しという典型的なジャパニーズ・ブレックファストを準備していてくれた。夢中で食べたように思う。しばらく忘れていた味に対する懐かしさというものを覚えたのはこれが初めてだったし、感激を感じながらの食事も初めてだった。文学巡礼の旅も半ばを過ぎ、B&Bのベーコン・エッグとパブ飯の日々が続き「そろそろ日本食が恋しい」というよりも、何よりも先生のあたたかいホスピタリティによって供された、巡礼者への心のこもった施しへの感激であった。

研究者高山先生への追悼の辞が、先生からの朝食のもてなしの話で始まっては失礼だったかもしれない。ただ、高山先生の学問的業績の数々についてはどなたも認めるところで、私の拙い筆で屋上屋を架すことは避けるべきであるし、おそらく、先生だって「いや ー、結構ですよ」と笑って一蹴されるだろうと思ったからである。とはいえ、略歴だけでも紹介させていただくことはお許しいただけることと思う。

ご専門はサミュエル・テイラー・コウルリッジだった。コウルリッジは詩人であり、文学批評家であり、哲学者であり、法律を学び、さらには、科学にも強い関心を寄せて、幅広い知識の持ち主であった。先生も文学研究者の道を歩み始める前は、電気関係がご専門で、電気技術者として働きながら電気工学を勉強し、工業高校で教師を務めた一方で、大学院に進んで英文学を学び、さらにドイツ文学、法律学にとどまらず、医用工学の研究にも長年従事したということである。あたかも求道者のように何かを見極めようとする先生の関心の強さが、その人生を様々な方向に向かわせたのだろうと思う。

そのようなご自分の経験をおくびにも出すことなくいつも静かな笑みをたたえ、飄然としていた先生のお姿が、私の目には残っている。

日本英語文化学会顧問
市川仁

（7）会員の新刊書案内

本学会員による新刊書をご案内しますので、学会員で研究書等を出版された方は編集部までお知らせください。

（8）機関誌等に関して

Ⅰ）〈「英語文化エッセイ」お知らせ〉

文学、文化、言語学、英語教育の各専門分野に関する研究ノート〉、〈書評〉、〈その他〉の投稿を幅広く求めています。

〈『英語文化エッセイ』投稿規定〉

和文 2,000 字、欧文 800 語程度。A4 用紙、Word 標準設定。

応募方法：メール（Word 形式の添付ファイル）、また「メモ帳」等でテキストファイルに変換した原稿も添付してください。

応募締切： 2025 年 10 月 31 日

なお、掲載の採否、及びコラム等のレイアウトは編集部にご一任願います。

応募先：日本英語文化学会『英語文化エッセイ』編集部編集長 清水純子

〒181-0005 東京都三鷹市中原 2-25-25 / Tel: 0422-41- 0029 / e-mail: jesse@jcom.zaq.ne.jp

II.）〈『異文化の諸相』投稿募集のお知らせ〉

2026 年 2 月発行予定の『異文化の諸相』第 46 号のの原稿提出締切日は 2025 年 10 月 4 日です。投稿を希望される方は学会ホームページの 『異文化の諸相』投稿規定（2024 年 5 月 9 日一部改訂）をよくお読みください。

原稿提出先：日本英語文化学会学会誌編集委員長 jsce.submission@gmail.com

編集: 日本英語文化学会/ 編集部: 大木富 原隆幸/
発行人: 中井延美
発行所: 〒279-8550 千葉県浦安市明海 1 丁目
明海大学 管理研究棟 1718 中井延美研究室